



KELES Newsletter

関西英語教育学会ニューズレター

2006年(平成18年) No.1 《2月号》



◆ 会長あいさつ -更なるご支援を-

余寒なお厳しき折、会員の皆様方にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

1月8日(日)の四地区合同セミナーには、142名の参会者を、1月14日(土)の奈良地区セミナーには、約200名の参会者をお迎えして盛会だったことを慶びたく思います。両セミナーともに、教職を志す学生・院生の皆様方、ならびに、現職の先生方が熱心に聴講されていたのが印象的でした。意欲的に発表して下さった方々、熱心に聴講して下さった方々にお礼申し上げます。

2月19日(日)には卒論・修論研究発表セミナー、3月18日(土)には和歌山地区セミナーが控えています。両セミナーへの参会を是非とも予定に組み込んで下さいますようお願いいたします。

今後とも本学会の諸活動に積極的に参加して本学会を盛り立てて下さいますようお願いいたします。教育改革が急展開中です。

会員の研鑽・情報交換に寄与する学会であり続けるために会員各位のお力添えをお願いして本年最初のご挨拶といたします。

◆ 兵庫・大阪・京都・滋賀地区合同セミナー報告

- 主催：関西英語教育学会・外国語教育メディア学会関西支部・京都教育大学外国語科分科会
- テーマ：「より良い英語授業を目指して、今できること」
- 日時：2006年1月8日(日)
- 場所：京都教育大学F棟
- 担当理事：西本有逸(京都教育大)、今井裕之(兵庫教育大)、竹内 理(関西大)、清水裕子(立命館大)

年が改まり、1月8日(日)に兵庫・大阪・京都・滋賀地区の合同セミナーが外国語教育メディア学会関西支部と京都教育大学外国語科分科会との共催という形で開かれた。開催地の京都は前日まで雪に見舞われていたが、当日は好天に恵まれ、142名の参会者が実践報告・ワークショップ・シンポジウム・講演それぞれの発表者の誠実なる言葉に耳を傾けた。

- 実践報告1 (第1室)

「話すこと、書くことを通した学力評価と指導方法の提案」

占部昌蔵(神戸市立大池中)

柳瀬 学(宝塚市立宝塚中)

中学生への指導、評価について、スピーキング評価方法の改善(占部さん)と漫画を使った文法指導としてのライティングの実践(柳瀬さん)の報告がなされた。スピーキング評価の提案では、インタビューテストの開発経緯が説明され、学習初期の中学生へのインタビューの際の工夫、理解力の確認も含めた評価、評価カテゴリーの問題など、多岐にわたった実践の議論がなされた。漫画を使った活動では、市販の漫画を利用するのではなく、生徒に4コマ漫画を創作させるという発想での実践だった。時間表現に関わる動詞の活用を創作のポイントにし、進行形、過去形を対比的に使いながら、4コマめに完了形で話のオチをつけ、時間表現感覚をリアルに把握、実感させる実践だった。参加者に十分な討論の時間を提供出来なかった

のがコーディネータとして悔やまれた。

報告:今井裕之(兵庫教育大)

- 実践報告2 (第1室)

「フォークダンス方式の音読指導」

紀岡龍一(大阪府立久米田高)

教師主導による音読練習後にペアで練習させる際に、練習が1回終わるごとにペアを変えて行う「フォークダンス方式による音読指導」の手順とその長所に関する報告であった。人間関係が良くない生徒同士の場合、固定されたペアによる練習はうまくいかない欠点を克服できること、座席についたままではなく移動して練習が行われるため、居眠りをする生徒がいなくなること、従来の指導に比べて練習回数も多く、テストの成績が向上することなどの長所が報告された。また、この練習法に対して、「面倒だ」と言いながらも、「ためになった」と答えている生徒が非常に多いという報告は、「力がつく」ことを実感させる英語授業の大切さを示唆している。

報告:鈴木寿一(京都外国語大)

- ワークショップ1および2

「英語の授業にTTS音声合成技術を活かす」

東 淳一(流通科学大)

TTS (Text to Speech)は、入力した文字情報を音声に変えるオンライン技術であるが、最近の音声合成技術の進歩により、教育現場でも活用できるほど良質になってきている。本ワークショップでは、合成音声の歴史に始まり、無料で使用できるTTSサービス・サイトの紹介により、最先端技術を身近に感じる事ができた。さらに、取り込んだWAV形式ファイルを英語教育の現場でどのように活用できるかについて、TTS音声合成のデモを通して紹介すると共に、e-learningへの応用についても触れてもらった。英語母語話者がいなくても、聞き取りテストや音声教材の作成が可能になるという大きな利点が、技術の進展と共に、今後、どこまで教育現場に浸透していくか、楽しみである。

報告:清水裕子(立命館大)

- シンポジウム

「より良い英語教育を目指して、今できることー小学校と中学校の連携ー」

玉島淳子(京都教育大附小)/山本玲子(京都教育大附中)/直山木綿子(京都市総合教育センター)

まず、京都教育大学附属京都小・中学校の小中一貫の取り組みが報告された。初等部(小1~4年)を担当している玉島先生は、「体感して表現する」授業を実践するなかで児童が「英語という言葉もなかなかおもしろいなあ」と感じていることを報告し、小学校教員ができることとして子どもたちの「言ってみたいな、伝えてみたいな」という気持ちを大切にすること・英語活動を通して「心を耕す」ことを強調された。

続いて、中等部(小5・6年)担当の山本先生は「認識して表現する」知的な興味・関心を高める授業を紹介された。たとえば、物語の読み聞かせ(実際に美しい朗読を披露された)では、普段はやんちゃな児童が熱心に聴き入り、規則動詞の過去形形態素や定冠詞の役割に気付くという事例を報告された。また、中学校側の変化として、1)英語の力(特に発音や聞く力)が高く意欲も高い生徒が増えた、2)ネイティブ・スピーカーに対する遠慮や抵抗が少なくなった、3)「何のために英語を勉強するの?」という質問は全く無くなった等を挙げて、中学校教員は小学校の実態をもっと知ろう、連携すればレベルを上げることが可能だと呼びかけられた。

最後に行政の立場から直山氏は、1)小学校英語と中学校英語の違い、2)誰が何をするのか、3)教育委員会・教育センターとしてできること、これらについて丁寧に解説された。氏は、ある小学校での英語活動の一場面(「福笑い」を英語で楽しむ担任と児童)を例に挙げながら、子どもたちが真に求めているのは深いものであり、それは人と人との言葉による意味のやりとりである、小・中学校教員はこのことに応える責務があると訴えられた。シンポジウム全体を通して、人と人との「間」に意味を生成させる・人「間」らしさを実感させる言葉の教育について参会者が深く考える機会になったとすれば、企画者としては望外の喜びである。

報告:西本有逸(京都教育大)

- 講演「英語教育の灯をともし続けよう！」

齊藤栄二先生(関西大)

笑わせて、考えさせて、感動させる「斎藤節」が炸裂した講演であった。「今日は Dictation に行く」と先輩に言われて、「柿取りに行った」というジョークからはじまった講演は、まず、新聞記事を利用して、教師

が置かれている現状の分析に入った。「前門の虎、後門の狼」とは、現状を見事にあらわした言葉であろう。続いて、日本人学生の学力低下問題の分析へに入る。この分析では、問題をヨコ(同時代の国際比較)で見るとはならず、タテ(歴史の流れの中での社会比較)で見るとはならず、日本は「学力が社会階層上昇のために機能しない」段階に入ったと指摘する。勉強しても意味がない社会となったのである。そして、この2つの分析(教師の現状と学力低下)をもとに、新しい学力観、つまり競争のための学力ではなく、考え、行動するための学力の育成が重要である、

との見解を披露された。「あなたは一生文型指導屋でおわるつもりですか？」という後半の問い掛けは、深く考えさせるものがあった。最後に、コミュニケーションとは何か、と我々に問いを寄せられ、中曽根康弘元首相の韓国語学習の例と、中学生のタイにおける異文化間体験を例として、真のコミュニケーションが平和を醸成するとの自説(『基礎学力をつける英語の授業』(三省堂)における沖縄戦の話とも呼応する)を強く訴えかけられた。充実した1日の締めくりにふさわしい深みのある講演であった。

報告：竹内 理 (関西大)

◆ 奈良地区セミナー報告

● テーマ: Let's Speak the Same Language

副題:「すべての場面で、もっと英語を使おう、
「ネイティブの先生とノンネイティブの先生は
もっと連帯を！」

- 日時: 1月14日(土)
- 会場: 天理大学 柚之内キャンパス
- 担当理事: 中井英民(天理大学)

今年度奈良セミナーは「天理大学英語教育研究会」との同時開催だけでなく、Nara JALT および NET Forum(奈良授業研究会)との共同開催となりました。4団体のメンバーと一般参加者、約200人が参加し、にぎやかで有意義な一日となりました。今回は統一テーマに「Let's Speak the Same Language」を掲げ、まず "Same Language"の一つである授業における「英語」の使用をどう進めるかについて、三郷中学校と一条高校(SELHi)からの報告を受けました。次にもう一つの "Same Language"である「ネイティブとノンネイティブ教員の共通理解」を促進すべく、両者によるシンポジウムを試行しました。最後の講演では、NHK テレビ「わくわく授業」でおなじみの、今一番ホットな田尻悟郎先生にワークショップを含めたご講演をいただき、会場の感動を呼びました。今回も、終日会の運営にご尽力いただきました、会長の瀬川先生と会計の岡先生には深く感謝申し上げます。

● 発表 1. 実践報告

「チャンツ(chants)から広げるスピーキング活動」

三郷町立三郷中 久 紀子

「中学ではしっかりと英語の発音と声を出すことを身につけさせたい」という久先生の願いに基づき、授業内・外、さらには長期休業中の家庭学習をも含めて取り組まれる、さまざまな活動がビデオとともに紹介されました。例えば、授業外の「英語での話しかけ」、「音読筆写・音読トライ・音読家庭学習」などの音読活動、「チャンツ」を利用した英語リズム指導など、生徒にシャワーのように英語を浴びせかけ、やがて生徒にどっぷり英語に浸ることが気持ちいいと感じさせる指導と活動が満載でした。参加者一同、きめ細かな指導例に学ぶところ大でした。

● 発表 2. 実践報告

「SELHigh の取り組みから:英語を多用する指導法をさぐる。英文法からプレゼンテーションにむけて」

奈良市立一条高 吉川俊美、酒井雅子

まず吉川先生から、文部科学省の SELHi(Super English Language High School)に指定された一条高校の英語教育の実践を、同校の外国語科1年クラスでの授業活動を例にして、ビデオでのご紹介がありました。今回は特に、文法の授業がどのように英語によるプレゼンテーション活動につながるかという流れが報告されました。次に酒井先生から、プロジェクト全体としての課題である、『総合的なアプローチにより、「聞く、読む、話す、書く」の4つのスキルを身につけさせ、最終的に生徒自らによるプレゼンテーションまでを一貫して行うプログラム作り』が報告され、日ごろな

かなか接することのできない、SELHi プロジェクトの一端を知ることができました。

● シンポジウム

「ネイティブ教員とノンネイティブ教員は、同じ『ことば』を話しているだろうか」

帝塚山大 ロドニー=ダンハム、マーク=シェフナー
天理大 中井英民

これからの英語教育を改善するためには、ネイティブ教員とノンネイティブ教員の間にある「みぞ」を埋める必要があります。そのために、両者が集い、それぞれの立場から生の声で思いを語り、連携の第一歩を始めた。中井のこの提起を受けて、母語話者教員であるダンハム先生とシェフナー先生より、「母語に関係なく、異なった考え方が存在するのが当然で、必要なのは同じ教育に関わる両者が、それぞれの価値観を明らかにし、学び合い、共有するものを作り出すことではないか」との提起がなされました。ネイティブ教員とノンネイティブ教員の連携は、難しいが避けられないテーマです。今回はその試みの第一歩に過ぎませんが、必要な第一歩だったと思います。

● 講演

Strategic and Spiral Ways of Developing Students' Speaking Abilities

東出雲町立東出雲中 田尻悟郎先生

田尻先生のご発表は、英語の授業に関わる4つの課題を、どのようにして授業で用いるアクティビティを通して実現していくかを、会場の参加者に体験してもらいながら探っていくという形で進められました。

ただし、田尻先生の発表が感動を呼ぶのは、先生の教員としての目標が、決して「スキル上達のための英語教育」にあるのではなく、英語を道具として、「生徒を育てるための英語教育」にあることが、ご発表全体から感じられるからだと思います。こうしたアクティビティの成果として、最後に先生は、生徒たちがALTに自分の町の好きなどを英語で話すという活動の場を、ビデオで紹介されました。3日間かけて話を書き、覚え、生徒たちが英語で懸命に自分の町の良さを話す姿に接して、会場はあたたかな感動で満たされました。田尻先生の締めくくりのことばは、「生徒たちの能力を信じるのが何よりも大切」でした。

記録:中井英民(天理大)

協力:小林早百合(天理大)

◆ 第2回和歌山地区セミナーのご案内(第一報)

- 日時:2006年3月18日(土)1:00~4:30
- 会場:和歌山市民会館4F第4練習室
- 担当理事:奥田隆一(和歌山大)

《実践報告》

「中学校英語--問題点と私の工夫」
平尾好子(有田市立保田中)

《研究発表1》

「リーディングクラスにおける多読指導の効果」
畠中加代子(和歌山高)

《研究発表2》

「OC-Iの評価の在り方について」

中川 裕規(新宮高・和歌山大院生)

《講演》

「私の英語教育と関西英語教育学会」

瀬川俊一先生(関西英語教育学会会長)

◆ 名簿係よりお知らせ

- 会員情報調査(2005年12月末締め切り)に未回答の方は至急ご回答を!詳細は同封の「重要確認事項」をご覧ください。
- オンラインでのご回答は
⇒本NLの最終頁HP①へ
- 新入会員
佐々木顕彦、吉田弘子、小原敦子、
安達友美、東眞須美(申し込み順、敬称略)

- 新入賛助会員
教育出版株式会社

※お問い合わせは、倉本まで

[keles_nyukai@infoseek.jp]

◆ 第10回記念研究大会のご案内

- 日時：2006年5月27日(土)、28日(日)
- 会場：龍谷大学 深草学舎
- 内容：研究発表・講演・シンポジウム、他
- 講演1：金谷 憲先生(東京学芸大)
- 講演2：投野由紀夫先生(明海大)
- 第10回記念研究大会シンポジウム
司会・パネリスト：沖原勝昭先生(神戸大)
パネリスト：金谷 憲先生(東京学芸大)
齋藤栄二先生(関西大)
瀬川俊一先生(京都府立大名誉教授)
- 発表応募申込み開始：2006年1月20日
- 発表応募締切：2006年3月25日 必着
- 発表要項原稿締切：2006年5月1日必着
- 会員参加費：無料
- 申し込みはホームページから
⇒ 本NLの最終頁 HP ②へ
- 参加費（会員無料）
当日聴講：一般 2000円；学生 1000円
(各1日分)
- 予稿集：1000円（BN:500円）
- 懇親会費
(早割)一般 4000円；学生 3000円
(当日)一般 6000円；学生 4000円

◆ 会計よりお知らせ

- 会費納入のお願い
年会費は以下の通りです。2005年度までの会費をまだお支払いでない方は、最寄りの郵便局にてお振込み下さい。
 - 会員種別年会費
 1. 一般会員(関西のみ) 5000円
 2. 一般会員(関西+全国) 7000円
 3. 学生会員(関西のみ) 3000円
 4. 学生会員(関西+全国) 5000円
 - 郵便振込：00910 - 7 - 39666
 - 加入者名：関西英語教育学会
問い合わせは、会計 岡まで [oka@uhe.ac.jp]
- ※全国英語教育学会では、2005年度会費を、2月20日(月)までに入金されないと、高知研究大会での発表資格を喪失しますのでご注意ください。

◆ 学会事業の電子化について

(1) 会員 ML のたちあげ(試行版)

学会からのタイムリーな情報発信と、会員のみなさんの情報交換の場として、新たに「KELES-ML(試行版)」をたちあげました。さまざまな情報配信を予定しておりますので、ぜひとも、学会 HP より、先生方のアドレスをご登録ください。登録は簡単で約 10 秒で終わります。なお、試行期間を経て、現行の紙媒体のニュースレターは、電子版に移行する予定です。

⇒本NLの最終頁 HP ③へ

(2) 大会発表申し込みの電子化

従来は、用紙に手書きで書き込んでいただき、切手を貼って事務局に郵送していただいていたが、今回からは、学会 HP より、名前や所属を入力するだけで、発表申し込みが完了するようになりました。また、お届けいただく「概要」も従来より短く、

より気軽に応募いただけるようになっております。申し込みに要する平均的時間は約30秒です。

(3) 紀要バックナンバー電子化プロジェクト進行中

第10回大会の記念行事として、これまでの紀要や卒論修論セミナーのプロシーディングズを一括して電子化し、CD-ROM 化するプロジェクトを進めております。古い時代の紀要などは散逸が進んでおりますが、本 CD-ROM が完成しますと、これまでの紀要掲載論文の内容なども一瞬で参照できるようになり、会員諸氏のすぐれた業績をより広くご活用いただけるようになります。完成後は、ご希望の方に、頒布する予定にいたします。(※5月の大会時点において18年度会費を完納しておられる会員の方は会員価格で入手いただけます)

学会電子化担当：石川慎一郎

KELES ホームページ： <http://keles.hp.infoseek.co.jp/>

会員情報調査、まだの方はお急ぎ下さい！

◆会員情報調査(2005年12月末締め切り)に未回答の方は至急回答を！

ご提出がない場合は、会員名簿に古い所属などのまま掲載される他、学会からの連絡が途絶することもあります。未提出の方は、全員、至急、ご返送をよろしくお願いいたします。説明用紙は<こちら>から。

- 1) エクセルファイルを下記よりダウンロード。
- 2) 必要情報を入力。ファイル名は変更せずそのまま書き保存して添付。
- 3) 送信先: keles_meibo[ATマーク]infoseek.jpへ添付で送信。
- 4) 送信時のメール件名は、「KELES会員情報」とし、本文に「氏名、所属」のみご記入下さい。

回答用紙< >はこちら！ 至急！

① 会員情報調査
2005年12月末締め切り分

第10回記念研究大会

◆KELES第10回記念研究大会

日時： 2006年5月27日(土)～28日(日)
会場： 龍谷大学・京都深草学舎
基調講演者： 金谷憲氏(東京学芸大)・投野由紀夫氏(明海大)ほか。

発表申込< >はこちら！ 3月25日まで

② 第10回大会申し込み

KELES会員MLの運用開始

◆KELES会員MLの運用開始

KELES会員に対して、HPの更新情報や、学会関連の最新情報などをお届けし、会員からのご質問・ご要望を常時受け付けるメーリングリストが開設されました。会員の方は、ぜひご登録ください。

なお、フリーのMLサービスを利用しているため、スポンサー企業などからの広告が入ることがありますので、事前にご了解ください。なお、広告などについて学会は一切関知していません。

本MLに登録いただいたアドレス情報は、学会ではなく、infoseek社が関連法令に基づいて管理します。各種無料アドレス(yahoo, hotmail, infoseekなど)でも配信には問題ありませんので、職場などの正式アドレスではなく、使い捨て可能なアドレスでの登録をおすすめします。

KELES-ML< >はこちらから！

③ 会員ML申し込み

発行日：2006年2月5日

《 関西英語教育学会ニューズレター 》

編集発行：関西英語教育学会 (KELES) 事務局
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学産業社会学部 吉田研究室内
TEL：075-466-3261 (研究室直通)
FAX：075-465-8196 (大学事務室)
E-mail：keles@infoseek.jp
Home Page：http://keles.hp.infoseek.co.jp/

